

以上、あまりデータの整理もせず、思いつく でのべた。読みづらいことを謝してこの稿を終
まゝに会議の模様、ハワイの農業の概要につい わる。(昭42年7月20日)

正 誤 表

号	頁	行		
3	12	右 35	Kuydendall	Kuykendall
3	14	第2表16	woter	water
3	14	右 10	Gleuher	Glenbar
3	15	photo	カワイ	カウアイ
3	16	右 8	chanceloer	Chancellor
3	16	右 21	The Weed Society	The Weed Science Society
4	10	左 4	やゝ大きい	やゝ小さい
4	10	第6表	肉 鶏	鶏 肉
4	11	第7表	wailua agri	Wailua Agri.
4	11	右 25	pond	pound
4	12	左 29	Gral	Grab
4	13	左 26	Amettyne	Ametryne
4	13	第8表	pand	pound
4	14	左 19	土壤貫入	土壤混層
4	15	右 33	cactus	cactus

昭和41年度冬作関係除草剤

試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和41年度冬作関係(麦・な
たね・い草・水稻刈取跡)除草剤の作用および
適用性判定試験成績の検討会が、去る8月31
日東京で開催された。

その結果の概要をここに紹介する。

1) 供試除草剤の動向

当協会発足前後から本年度の間に冬作用とし
て供試された除草剤数について、対象別の傾向
を示すと、第1表の通りである。すなわち、昭
和38年度87薬剤、同39年度88薬剤、同
40年度76薬剤、同41年度50薬剤、同42
年度45薬剤がそれぞれ供試された。委託薬剤

数は、麦及びなたねの作付減少に伴って、少なくなりつつある。これを対象別にみると、麦対象で激減し、一方、水稻刈取跡の多年生雑草防除用が増大していることがみられる。

2) 昭和41年度試験結果の概要

冬作用として昭和41年度に供試された除草剤数については、さきに述べたとおり50薬剤120場所であり、その成分を示せば第2表のとおりである。

これらの中で、除草効果・薬害等の面より有望と認められて、実用化に移されることになったものは合計10除草剤である。ただし、このうち一部のものは既に昨年度より実用化が認められていたものであるが、これらは適用地帯・

適用時期の拡大や効果の再確認等を目的として試験されたものである。それらを対象別にみると麦普通畑用3薬剤、麦畑春季雑草やエムグラ用1薬剤、ナタネ1薬剤、イグサ3薬剤、水稻刈取跡マツバイ1薬剤、同休閑田1薬剤となっている。

実用化の認められた除草剤の作物別使用基準を示すと第3表のとおりである。

また、適用性判定試験の判定結果については、第4表に示したとおりである。

なお、詳細については、当協会発行の昭和41年度冬作関係除草剤作用性、適用性判定試験成績集録（既刊）、同要録（現在印刷中）を参照されたい。

<第1表> 冬作関係（麦・ナタネ・イグサ・水稻刈跡）除草剤試験の推移

（ ）内は対38年度比率を示す。

対 象		試 験 年 度 別 供 試 薬 剤 数					同左実用化に移された除草剤数				
		38	39	40	41	42	38	39	40	41	42
作用特性試験		24 (100)	32 (133.3)	20 (83.3)	12 (50)	12 (50)	—	—	—	—	—
適 用 性 試 験	麦 畑	35 (100)	23 (65.7)	23 (65.7)	12 (34.3)	6 (17.1)	13	11	11	8	—
	麦 畑 ヤエムグラ	10 (100)	7 (70)	2 (20)	1 (10)	0 (0)	5	2	2	1	—
	ナタネ	5 (100)	6 (120)	4 (80)	4 (80)	3 (60)	1	2	2	1	—
	イグサ 七島イ	0 (—)	1	6	4	3	0	0	4	3	—
	水稻刈跡 マツバイ	6 (100)	9 (150)	9 (150)	7 (116.7)	14 (233.3)	0	1	4	1	—
	水稻刈跡 ミズガヤツリ	7 (100)	7 (100)	8 (114.3)	3 (42.9)	5 (71.4)	0	1	2	0	—
	水稻刈跡 ヒルムシロ	0 (—)	3	2	1	2	0	2	1	0	—
	水稻刈跡 クログワイ	0 (—)	0	1	0	0	0	0	0	0	—
	水稻刈跡 休閑田	0 (—)	0	1	6	0	0	0	1	1	—
	合 計		87	88	76	50	45	19	19	27	10
同 上 比 率		100	101.2	87.4	57.5	51.7					

<第2表> 供 試 薬 剤 成 分 一 覧 表

対 象 作 物	薬 剤 名	成 分 及 び 成 分 含 有 率	委 託 会 社 名
麦 類	HW-40187 乳 剤	3,5-ジメチル-4'-ニトロフェニルエーテル 25%	保 土 谷 化 学
	S-4154 水和剤	1-(2-メチルシクロヘキシル)-8-フエニルウレア 50%	住 友 化 学
	C M B U 水和剤	N-パークロフエニル-N-メチル-N-イソブチニルウレア 50%	北 興 化 学
	H-326D 水和剤	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチルウレア 80% 3-(3,4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチルウレア 20%	丸 和 物 産
	H-669 乳 剤	Cl-IPC 85% リニユロン 15%	丸 和 物 産
	リニユロン 水和剤	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチルウレア 50%	丸 和 物 産
	UC-22463 粒 剤	3,4-ジクロロベンジルメチルカーバメイト 5%	長 瀬 産 業
	S-4159 水和剤	0-(2,6-ジターシャリブチル-4-メチルフェニル)-N-メチルカーバメイト 80%	住 友 化 学
	CYPROMID 乳 剤	3,4-ジクロロシクロプロパンカーボキサニアニリド 24%	東 陽 通 商
	T O - 2 水和剤	チアゾール誘導体 50%	東 洋 高 圧
	ACP-497 乳 剤	" 20%	2,4-D協議会
	HE-168-A 水和剤	DBN 25%, リニユロン 21.9%	兼 商
麦畑・ヤエムグラ	M&B8873E 乳 剤	3,5-ジヨード-4-ハイドロキシベンゾニトル 25%	塩 野 義 製 薬
な た ね	MO-338 乳 剤	2,4,6-トリクロロフェニル-4'-ニトロフェニルエーテル 20%	M O 普 及 会
	S-4154 水和剤	麦類の項参照 (50%)	住 友 化 学
	S-4159 水和剤	" (80%)	"
	S-4160 水和剤	0-メチル-N-(4-アミノベンゼンスルホンル)カーバメイト 80%	"
ばれいしょ	SW-6605 水和剤	フェノキシ系 50%	三 共
い ぐ さ	HW-40187 乳 剤	麦類の項参照 (25%)	保 土 谷 化 学
	MO-338 粒 剤	" (7%)	M O 普 及 会
	B N P C 粒 剤	ブチノール-N-(3-クロロフェニル)カーバメイト(BIPC) 4% ジクロロベンゾニトリル(DBN) 1%	北 興 化 学
	P P - 12 粒 剤	DCBN 1.2%, PCP-Na 1.7%	PP除草剤普及会
水稻刈取後	DIC-115 水和剤	2-メチル-4-クロロフェノキシアセトヒドrazilド(CPH) 50%	大 日 本 イ ン キ
D マ ツ バ イ	SE-411 粉 剤	スルファミン酸塩 97.98.99% フェノキシ塩 8.2.1%	昭 和 電 工
	SE-401 水溶剤	スルファミン酸アンモニウム塩 97%	昭 和 電 工

対 象 作 物	薬 剤 名	成 分 及 び 成 分 含 有 量	委 託 会 社 名
(マツバイ)	SW-6508 液 剤	ソジウム-2,2,3,3-テトラフルオロ 50% プロピオネート	三共, ジイキン
	M-2901 液 剤	2,3,5-トリクロロ-4-ビリジノー ルカリ塩 19.8% (酸 16.2%)	ダウ・ケミカル
	Diphenamid 水和剤	N, N-ジメチル-2,2-ジフ エニル アセトアמיד 80%	塩 野 義 製 薬
	ATA+2,4-D 水溶剤	{ 3-アミノ-1,2,4-トリアゾール 28% 2,4-D・Na 60%	2,4-D 協議会
ii) ミズガヤツリ	パ ラ コ ー ト 液 剤	1,1-ジメチル-4,4-ビビリジリウ ムジクロリド 24%	I C I 日 本 農 薬 武 田 薬 品
	M-2901 液 剤	マ ツ バ イ の 項 参 照 (19.8%)	ダウ・ケミカル
	OK-6511 水和剤	ヒドラシン誘導体 30%	大 塚 化 学
	C P D 微粒剤	PCP-Na 70%, 2,4-D・Na 3.2%	協 和 化 学
iii) ヒ ル ム シ ロ	M&B8873E 乳 剤	3,5-ジヨード-4-ハイドロキシ ベンゾニトリル 25%	塩 野 義 製 薬
iv) 休 閑 田	S-4160 水和剤	ナ タ ネ の 項 参 照 (80%)	住 友 化 学
	M-2901 液 剤	マ ツ バ イ の 項 参 照 (19.8%)	ダウ・ケミカル
	D P A 水和剤	2,2-ジクロロプロピオン酸ソーダ塩 85%	ダウボン普及会
	塩素酸ソーダ 水溶剤	塩 素 酸 ソ ー ダ 98%	東 亜 農 薬 保 土 谷 化 学 昭 和 電 工
	塩素酸ソーダ + 2,4-D 水溶剤	{ 塩 素 酸 ソ ー ダ 98% 2,4-D ソ ー ダ 95%	#
	塩素酸ソーダ + DCBN 水和剤	{ 塩 素 酸 ソ ー ダ 98% D C B N - 3 50%	#

<第3表> 昭和41年度冬作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (成分g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
麦 類	CMBU 水和剤	土 壤 処 理	播 種 後	15	火山灰性畑 土 壤	畑作全般	広葉優占群落に効果 大
	H-669 乳 剤	土 壤 処 理	播 種 後	7.5~10	洪積火山灰 土 壤	麦圃全般	・覆土2~3cmとす る ・均一散布
	UC- 22463 粒 剤	土 壤 処 理	播 種 後	20	壤土~ 埴壤土	・水田裏作の平 畦栽培地帯 ・イネ科優占地 帯	土壌が湿っている状 態で均一散布
麦畑 ヤエムグラ	M&B 8873E 乳 剤	雑 草 処 理	ヤエムグラ 2~4L期	4~6	暖地全般	暖地全般	ヤエムグラ対象

区 分	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (成分 g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
な た ね	MO-338 乳 剤	土 壤 処 理	播 種 後	20~30	全	・スズメノテッポウの優占する暖地水田裏作地帯	・覆土1~2cmとする ・均一散布
い ぐ さ	BNPC 粒 剤	・土壌兼雑草処理 ・湛水	生 育 期 (3月上中旬)	BIPC+ DBN 16+4~ 24+6	壤土~ 壇壤土	いぐさ圃全般	・漏水の少ない水田 ・均一散布
	PP-12 粒 剤	・土壌兼雑草処理 ・湛水	生 育 期 (3月中下旬)	PCP+ DCBN 51+3.6~ 68+4.8	全	{ いぐさ圃 七島い圃 PCPに準ずる	PCPに準ずる
	MO-338 粒 剤	湛水土壌処理	植 付 後	21~28	砂壤土~ 壇土	一年生雑草優占の七島い圃	均一散布
水稻刈取跡 マツバイ	DIC-115 水和剤	雑 草 処 理	水稻刈取後	15~20	全	暖地一毛作田の早期水稻 (9月中旬までの刈取)	稲刈取後10日以内に落水散布
同 休 閑 田	DPA 水溶剤	土壌及雑草処理	水稻刈取後 (スズメノテッポウ2~3L期前後)	20~35	全	一年生イネ科雑草優占地帯	雨期・乾燥期をさけて均一散布

＜第4表＞ 実 用 化 判 定 一 覧 表

区 分	実 用 化	実 と 継	継	継 ?	中 止
(1)麦 類	M&B8873E乳剤 (ヤエムグラ)	CMBU 水和剤 H-669 乳剤 (播種後) UC-22463 粒 剤 (播種後)	HW-40187 粒剤 H-326D 水和剤 (播種後) H-669 乳剤 (生育期) UC-22463 粒剤 (生育期) CYPROMID 乳剤 TO-2 水和剤 (生育期) ACP-497 乳剤 HE-163A水和剤	リニロン水和剤 (生育期)	S-4154 水和剤 H-326D水和剤 (生育期) S-4159 水和剤
(2)なたね	MO-338 乳剤		S-4154 水和剤 (播種後) S-4159 水和剤 (播種後) S-4160 水和剤 (播種後)		S-4154水和剤 (生育期) S-4159水和剤 (生育期) S-4160水和剤 (生育期)
(3)ばれいしょ			SW-6605 水和剤		

区 分	実 用 化	実 と 継	継	継 ?	中 止
(4)いぐさ	BNPC 粒剤 (いぐさ) PP-12 粒剤 (いぐさ・七島い) MO-388 粒剤 (七島い)				HW-40187 乳剤
(5)水稲刈取跡 マツバイ		DIC-115 水和剤	SE-411 粉剤 SE-401 水溶剤 SW-6508 液剤 M-2901 液剤 ATA・2,4-D 水溶剤 CPD 微粒剤		
(6) 全 ミズガヤツリ			パラコート 液剤 M-2901 液剤 OK-6511 液剤		
(7)全 ヒルムシロ			M&B 9057 水和剤		
(8) 全 休閒田	DPA 水溶剤		M-2901 液剤 塩素酸ソーダ 水溶剤 塩素酸ソーダ・2,4-D 水溶剤 塩素酸ソーダ・DCBN 水和剤	S-4160 水和剤	